

ボランティア支援 総合センター

本学では近隣の教育委員会と学生派遣協定を結び、本学学生をスクールサポーターとして、学校園に派遣しています。しかし、社会福祉やまちづくりといったボランティアに関しては、学生への支援はまだ十分に確立していませんでした。

そこで、平成20年度に「ボランティア支援総合センター」を設置しました。これにより、今まで以上に情報の共有化や支援事業の一元化が図られました。また、相談員などを配置することにより、学生のニーズに合った派遣先の紹介や改善に向けた継続的な取り組みが可能となり、課外教育として学生のボランティア活動の充実に大きく寄与しています。

■学校教育ボランティアについて

奈良市、奈良県、京都府、京都市、堺市、柏原市などと協定を結び、スクールサポートボランティアを派遣しています。平成16年度からはじまり、平成20年度は約200名もの学生が参加している、教育大学という特色を生かした活動です。授業のない時間を有

方法があることに驚いています。あなたと一緒に活動しませんか？きっと心が温かくなりますよ。

☆菜の花バイオマスプロジェクト

▼プロジェクトの意義

地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの発生を抑制するために、菜の花を栽培し、収穫した菜種を搾油し家庭で使った後、廃食油をバイオディーゼル燃料に再利用する資源循環型の社会を進めるプロジェクトです。

▼活動内容

通常は種まきから始まりますが、途中参加のため、刈り取り、種のよりわけ作業でした。刈り取った菜の花をブルーシートの上に広げ、足で踏み種を落します。最初は茎が足に刺さって痛いのですが、慣れてくると痛さも気にならず、とても楽しい作業でした。その後、古くからの道具である唐箕を使い、種とカスをよりわけます。きれ

効に使うことができ、教員になるための経験を積むことができます。ボランティア支援総合センターでは、週1回相談員が相談のつています。

■一般ボランティア活動の支援について

社会に出る最終段階である大学でのボランティア活動は、他者のための活動であると同時に、色々な価値観や様々な特性を持った人と接し、感じ、考え、行動し、社会に対する「もののみかた」を作り上げ、自らの人格を磨く場となります。当センターでは、すでに社会的に認知された活動に参加する機会を提供するだけでなく、大学生だからこそ見えてくる、社会の矛盾や問題などを少しでも解決に向けて努力しようとしている学生と共に考え、共に悩み、サポーターするようにしています。そして現在、学生自身が立ち上げたプロジェクトがどんどん増えていつていきます。その例をいくつか紹介します。

いに種とカスが分別され、昔の人の発想のすごさに感銘を受けました。

▼活動を通して考えたこと

ボランティアを始め、何もかも初めての経験でした。最初は少し緊張していましたが、新しいことに挑戦することと自分を成長させることができました。また、ボランティアには新たな出会いや発見があることを知りました。これからも自分も楽しめ、誰かの助けにもなるボランティアに是非挑戦していきたいと思っています。そして、有意義な時間を過ごし、社会に出た時に生かしていきたいと考えています。

☆なつきよん's cafe

▼活動の目指すもの

この春に、留学生と日本人学生が交流し、異文化理解を深めようとなつきよん's cafe を始めました。本学のイメージキャラクター「なつきよん」から命名したなつきよん's cafe は、日本人学生との交流を求める留学生などの憩いの場にしてもらえればと思っています。現在は留学生と日本人学生合わせて10数名で日本語の会話を楽しみながら、各国の挨拶や言葉を教えあったり、異文化体験や国による文化の違いについて討論するなど、異文化理解にもつながっています。最近の討論内容は「制服は必要か否か」「各国に見る理想の教師像」「世界の麺文化」などです。留学生と友達になりたいと思っている日

☆ペットボトルのキャップ捨てないで！ キャップ回収活動

▼プロジェクトの意義

日本は医療が発達し、薬やワクチンが豊富にあるため、ほとんどの子どもは病気にかかっても生きることができます。しかし、世界には生きたくても、ワクチンを接種するお金がなく、予防可能な感染症で命を落とす子どもがたくさんいます。私たちはそのような子どもの命を少しでも多く救うために「あいふたFromなら」という愛称でキャップ回収活動をしています。

▼活動内容

「エコキャップ」は、誰にでも簡単にでき、小さな積み重ねではありますが、人の優しさがいっぱいこもった素敵なボランティアです。大学、公共施設、保育所などの協力により、ペットボトルのふたを回収し、売却益を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄贈し、ユニセフを通じてワクチンを世界の子どもたちに贈っています。ポリオワクチン1人分を贈るには800個のキャップが必要ですが、たくさんボランティアのお陰で、今まで30人の子どもにポリオワクチンを提供することができました。また、キャップを焼却しないことにより二酸化炭素を削減するこ

本人学生にとつてもいい機会だと思います。毎回いろいろな国の留学生が参加するので、学内での交流を深めることができます。また、どの留学生も流暢に日本語を話すので、すぐ友達になれます！
色々な文化と触れ合えるなつきよん's cafe に是非、足を運んでみてください。

■今後取り組みたいプロジェクト

▼長期入院の子どもに生の音楽を

ホスピタルコンサートという、入院している子どもたちの前で演奏する計画を立てています。入院している子どもたちは外出ができないので生演奏を聴く機会がないと聞き、そんな子どもたちのために何かできないかと思ったのがきっかけでした。音楽の素晴らしさを感じるのには、生の演奏を見て、聴いた時だと思っています。音楽っておもしろいな、すごいなと私が小さい頃に感じたように、自分からそのような機会を持つことができない子どもたちにも感じてほしく、また、子どもたちの癒しの機会となればと思います。まだまだ計画段階ですが、必ず実現できるようこれから頑張っていきたいと思っています。

■ボランティアに 参加したことがない方へ

ボランティアを一度でも良いから経験してみてください。活動することによって見えてくるものがあったり、自

とができ、環境にもやさしい活動です。

▼活動を通して考えたこと

大学に入学してから今まで、自分自身の事でいっぱいになっていて、周りの事に気を配る余裕がありませんでした。しかし、このボランティア活動を通して、世界の現状を知るきっかけとなり、視野が広がりました。今までにも、様々なボランティアをしてきましたが、募金活動をして発展途上国の子どもにお金を送っていました。しかし、このエコキャップ運動では直接お金を集めるのではなく、キャップを集めることによって人を助けることができることを知りました。様々な支援の



ボランティア相談員
小島道子



学生
ボランティア
スタッフ



教育学部3年生
米田明弘



教育学部3年生
大谷志保



教育学部3年生
土岐知嘉子



教育学部3年生
吉田悠一



教育学部2年生
郷原晴香



教育学部2年生
大道康弘



教育学部1年生
折戸大輔